

1989年

名古屋市緑社会教育センター

# 戦争体験を語り継ぐ集い

悲しい戦争を、再び起こさない！！  
 こどもたちに、平和な世界を贈りたい！！  
 そんな願いをこめて、ぜひご参加下さい。  
 ＊ 当時を偲ぶ写真やパネル、品物を  
 展示します。ぜひ、ご覧下さい。



とき 8月10日 (木)  
 午前10時 ~ 12時

ところ 緑社会教育センター  
 3階 視聴覚室

講師 小出 裕 先生  
 日本福祉大学 講師

資料提供 「熱田空襲を記録する会」  
 (代表 小島 守 氏)

★ 戦争当時の様子を思い浮かべる品物をお持ちで、当日展示できる方はセンターまでご連絡下さい。 ☎ 621-9121

## 「風化」することのない「戦争体験」

小 出 裕

決して時間がたっぷりあったのではではありませんが、多くの方々から証言を頂き、戦争体験の諸相をうかがう貴重な機会を得、出席者ならびに関係者の皆さんにお礼申し上げます次第です。

国民が、神聖・絶対・万能の国家（天皇）にひれ伏すことを強いられた時代、国民のいのちと生活が粗末にされ、恐怖にさらされた時代にあつての、お一人お一人の「体験」証言は、その言葉が持ついかにも私的な響きをはるかに越えて、聞く者に深く迫りました。その悲しみの深さを元手にして、それぞれが戦後、いのち、平和、人権等の問題で思いと営為を新たにされたそのことこそ、次の世代が引き継ぐ大事であると思います。

体験者と非体験者、当事者と非当事者、世代の前と後、それらがもし連帯の輪を造ることができるとしたらその結び目は、「体験」というより、人間の証をめぐるそういう「思い」である、と私は考えますが、いかがでしょう。戦争体験は、体験世代の独占物とするには余りに大きくて、重い体験ですが、体験の世界に浸るのみでは、逆に独占物となってしまう、思い出の倉庫の中に入れられてしまうかもしれません。

よく、時が経てば体験は風化する、といいますが、それ以上に時が経てば、コトの次第と全体がよりはっきりしてくるのも真実であり、今度の「会」でもそのことは証明されました。当地の空襲の実態についてもそうでしたし、家族を守った人々や生活者の当時の息遣いは、はっきり聞こえるほどでした。既成の知識や記録を検証し、真実をさらに追求すべきだとの、ご意見もありました。「もっとはやくこうした『会』の開催を呼び掛けるべきだった」とのご忠告も頂きました。

今回の「会」をきっかけとして、息の長い、貴重な体験と証言の積み上げが効き、平和への思いを結び目にした、新しい「輪」が回り出すことになればと思います。

（日本福祉大付属高校講師）

戦争体験を語り継ぐ集い

一九八九年八月十日（木）  
午前十時～一二時

名古屋  
緑社会教センター  
視聴覚室

主催者 あいさつ 小林 社会教育主事

本日は暑い中をお集まり頂き、ありがとうございます。  
ます。

今日は、「戦争体験を語り継ぐ集い」ということですが、今小学生の子どもが一人来ていますが、こういう子ども達に聞いてもらいたいという思いは有ったのですが、

今日のねらいは、戦後四十四年たって、戦争体験が風化していくと言われています。「現代史講座」の中で「これまで戦争体験のことは親に聞けばいいと言われてきた。しばらくすると、これからはお祖父さんやお祖母さんに聞きなさいと言われるようになった。それじゃあこれからは、一体誰に聞けばいいのか？」という声がありました。

最後にアンケートや感想文にお答え頂くわけですが、とくに皆さんの貴重な体験を「語り継ぐ」だけでなく、「記録してはどうか」という声もあります。

また、部屋の後ろに展示してあります資料ですが「熱田空襲を記録する会」からお借りしたものです

しい空襲にあつたり、といろいろあると思われれます要するに、お一人お一人が戦争にどう関わってこられたかをそれぞれの立場から率直にお話しして頂ければ、と思います。

どなたか、口火を切って頂けますか。

Aさん(男性)

後ろの地図を拜見しております、「愛知時計」が中心に書かれていますですが、むしろその隣にあった「愛知航空機」のほうが被害はひどかったのではないかと思つたものですから、一言だけでもと思いました。

私達は、あの四十四年目前のことは一日でも忘れたいことはありません。私の息子は昭和十六年十二月十一日、つまり開戦の三日後に生まれました。あの頃は調子が良くて来る日も来る日も「大本営」「大本営」と景気が良かった。ちょうどこの日は海軍がイギリスの戦艦「プリンス オブ ウェールズ」を撃沈した日でした。記念にその日の新聞を取って置いたんですが、長い間に無くしてしまいました。

今回の話し合いの取り回しを小出裕先生にお願いしました。

それでは、よろしくお願ひいたします。

司会

ただ今、紹介いただきました小出と言います私は昭和十六年に生まれました。小さいときに空襲のサイレンを聞いた記憶もあります。物心が付いてからは、おかあちゃんに「ああいう恐ろしいことは起きるの？起きないの？」などと問ひ詰めたことを覚えております。

今日おいでの方々は人生の先輩であり、また戦争体験の当事者でもあります。「語り継ぐ」ということです。体験を語る側、聞く側、受ける側皆の仕事にするにはどうしたらいいのか、ということも合わせて考えながら今日の会を進めていきたいと思っています。

戦争体験と言いつても、戦場での戦闘体験もありませんし、銃後といいますが、子どもを育てたり、家庭を守るための苦しい体験もありました。激

今でもあの新聞のことは残念に思っています。

私は教育者の家庭に生まれ、今の高校の教師の資格が取れる大学を卒業したんですが、教育者にならなくて父や母が死んだのをきっかけにスポーツ店を始めましたが、昭和十七年に「徴用」で「愛知航空機」へ行くことになりました。中学校の先輩の岡野さん(三菱大江工場長)もそこならいいだろうもし、そこではねられたら三菱へこいや、と言われました。しかし、結局は愛知航空機へ行くことになりました。この愛知航空機は、愛知時計と同系列で航空機は水冷エンジンを、愛知時計はメーターなどの部品を作っていました。

その頃は、男なら「兵隊に行くか徴用に行くか」が晴れがましい事とされていましたし、またそういう教育を受けていたので自由に物が言えない時代でもありました。

ところが、そこは「発動機」を作るところで、文科系の私にはおおよそ縁の無いところでしたので、ああ、これが旋盤か、これがボール盤か等と言いながいろいろ教えて貰いました。しばらくして「試作

課」というところへ配属されました。三等工員でした。三等、二等、一等工員とあり、その上に三等工士・・・があり、その上に「工士長」いました。兵隊の位でいうと「准尉」クラスと思われます。

工場へは、時々海軍から将校が巡視に来まして、ちよつとでもミスをする、自分のお父ちゃんくらの工員を青竹でビシッビシッと殴つたりしていましたね。ま、それはどこの工場でも同じだったらしいんですがね。

工場の様子を見てやろうと。ぐるっと回っていると、中学校の三年後輩が工場長としてきており、「Kさん、どうしたんですか？」と言うので「名誉ある徴用で来ておるんだ」と答えると「いま職員が足りないの、職員になれと言われるかも知れませんよ」と言われました。それから三か月後、事務に呼ばれて行くと、いきなり「」という辞令を貰いました。

ところが自分は機械のことは何も分かりませんでしたので、やがて会社から「あいつは機械よりも動員されてきている学生なんかを扱わせたいほうがいい

とにかく戦争は決して賛成できません。(拍手)

司会 ありがとうございます。それじゃあ、次の方どなたかございませんか？

Bさん(女性)

私は当時中区の上前津の約100メートル南の、「富士見町」という所に住んでいました。「空襲」と言うと消防団の人達が走り回っていましたね。当時は食べる物もなかつたので、空襲と言うと食べ物を包んで、それを弟に持たせ、「火の無いほうへ逃げなさい」と言って避難させ、私達は残って家を守ろうとしました。一生懸命火を消そうとするんですが、どうしようもなく・・・

司会

消火に努めたのは、三月十二日のことですか？

Bさん

そうです。

かも知れない」と言われ、勤労学徒の係になった。当時の中学校では、男子では中商、女子では淑徳、金城なんかも来ていましたね。

ときたま工場が疎開していた三重県の「久居」へ私が行っていて、熱田の工場へ来る予定になっていましたが、海軍のえらいさんが居なかつたので久居に居たのですが、それがちよつと爆撃の日でした。翌日熱田へ来たのですが、2トン爆弾で凄い被害でした。白鳥橋なんか壊かつたですよ。海軍の兵隊がまるで魚を釣るように死体をトラックに放り投げていましたね。

一人になった私は、早速棺桶を650も注文したんですが、とても間に合いません。

日比野にも三千ほどの死体が道路に並べられていましたね。豊明へ帰ると役所の人が日比野へ豊明の人を探しに行くので一緒に来て欲しいと言うので行きましたが、二三日すると死体はもう腐っていますから誰が誰だかもう分かりませんでした。・・・  
こうして四十四年たった今、当時の体験を語り合うことはとても良いことだと思います。

焼夷弾でしたからね。火事になると火よりも風が強くなりましてね、もう電車通りから火の付いた障子や唐紙がまるで紙の様に飛んできまして、また類焼するんですよ。

だから、大切なものは、なんでもかんでも手当たり次第に井戸へ投げ込みました。蓋をする間もなかつたんです。次の日に取りに行こうとしたんですが火の海で近づけませんでした。一週間ほどたつてから井戸屋さんに来て貰って引き上げましたが、風呂の湯よりも熱かつたそうです。中の物は、角が燃えて、端切れしか残りませんでしたね。

司会

ところで、あなたの家はどうでしたか？

Bさん

全焼でした。防空壕も無ければ水槽の水も無く、手が付けられない状態でしたからね。

司会

名古屋の三月十二日の空襲は、東京の空襲の翌日で、軍需工場をめぐれた空襲でなく、一般市民や下請け工場を攻撃して市民の戦闘意欲を低下させるねらいがあったようです。

Bさん

夜でしたねえ、空襲は。

次の日の朝、東の方を見るとすごい大きな、本当に真っ赤なお日様が出ていて、この世の最後かと思いました。

司会

それから後は・・・

Bさん

私の所は、田舎に親戚が無くて、中区ばかりでしたので、そのうちで焼け出されなかった下茶屋町の親戚の家へ行きました。そこへ親戚中のものが集まり、一日中「くど」の前に座りっぱなしでごはんの世話をしてくれる人の世話になりました。

それから三月十九日にもありましたね。その時はもう何もなくて、身軽な気でおりました。

司会

他に空襲の経験のある方はおられませんか？今は三月十二日の空襲の話でしたが・・・

Cさん（女性）

私は相原郷で百姓をやっていました。徴用が来るといけないと言って、「中央発条」へ働きに行きました。

空襲が来たと言うので防空壕に入りますが、防空壕と言っても地面の上に木や竹を組んだものの上に土をかぶせた物です。

すぐ近くに爆弾が落ちました。死傷者は無かったですけど・・・

司会

ちょっと・・・「相原郷」というのは鳴海のどのあたりですか？

Cさん

六田の緑郵便局の近くです。

司会

すると、この近くでも空襲があったんですね？

Cさん

何時だったか・・・十二月だったか・・・

司会

このあたりが一番激しい空襲は五月十七日ですねその前に一月十四日の空襲があったんですね。このあたりでも防空壕はかなり作られたんですか？

Cさん

簡単な作りですから、爆弾が落ちると物凄い振動でしたね。だから、空襲になると飛行機がくるというのに天白川の土手に避難しました。そういう怖い経験を思い出しました。

司会  
もう一つ質問ですが、さきほどAさんは「名誉ある徴用」と言われましたけれど、こちらの方は「徴用が来るといけない」とおっしゃったんですが・・・

Aさん

先生にお願いですが、その当時のお年を聞いて頂けませんか、私達では聞けませんから・・・（爆笑）

司会

私も聞かせませんが・・・  
続いてどなたか・・・

Dさん

私は昭和十二年に徴兵で取られてから終戦の年まで戦争に参加していました。昭和十五年からは中国に行っていました。困境付近のノモンハン事件のあった所でしたが・・・戦争と言っても私は一個の弾も撃ったことの無いダメ兵隊でしたが・・・

私の仕事は通信関係の仕事で、毎日暗号の解説や敵の通信の傍受などをしていました。

そのうちに、八月十五日に、なにか重大なニュースがあると聞きました。

なにかよく聞き取れない声で「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び…」などと言っていたのを覚えています。相模原の通信学校の近くには青年将校の学校がありましたね。その青年将校達が「反対だ、我々は反対だ」と言って練習用の飛行機に乗って私達の上を飛んでアジるわけですね。

私達の学校の先生達は、「ああいうやつ言うことを聞いちゃあいかんのだ」と言っていましたね。

それから、毛布やらカンパンやらを買って、九月二十日位に家へ帰ったんですね。

司会

ありがとうございます。他にどうですか…

Dさん(女性)

私はその頃、神奈川県横須賀に住んでいました

主人が浦賀ドックに勤めていたものですから…

司会

浦賀ドックというのは徴用かなんかで…

Dさん

いえいえ、そこに就職していました。そこから四日市の工場へ行きました。私達は私の在所の石川県能登市へ疎開しました。そこで「こうりゃん粉」(朝鮮からか)を積んだ船が沈没し、村に配給され「こうりゃん粉」を食べましたが、とてもまずくてもまずくてねえ、そんな思い出があります。

司会

造船所の人達は、皆さんそんな風に疎開されたんですか？

Dさん

いやあ、そうじゃあないですね。姑が男勝りで大役をもっていたので、私達に「疎開しろ」っていうんで私と子供が郷へ疎開したんです。

司会

造船所へは空襲はなかったんですか？

Dさん

浦賀のほうは大したことはなかったけど、私達が防空壕に入っているときに、横浜が凄かったですね空が真っ赤で、きれいに見えました…

司会

ありがとうございます。

Eさん(男性)

私は大高に住んでいます。

昭和十六年には名古屋の陸軍工廠にいました。

司会

名古屋の陸軍工廠というと、千種ですか、熱田ですか？

Eさん

熱田です。日本車両の隣です。

昭和十九年に召集され、第六連隊に配属されました。そこに2週間おって、小幡やら本地が原へいってから名古屋駅から軍用列車に乗って一路中国の戦線へ行ったわけだ。

山陰本線で下関、連絡船で釜山、朝鮮半島を北上し、板門店から38度線を越えた。さらに、黄緑江を渡り満州の奉天を回って齊南、除州、十月位かなあ、楊子江を北上し武漢三鎮へでた。安鎮でものごい空襲を受けた。それで教育隊へ二昼夜の行軍だった。本当に辛かったなあ。この場で死んだほうがええか知らんと思つた。教育隊は三月だった。

その時も、慶鎮から物凄い空襲だった。その時、まあ勝てえせんような戦争はぜつたいやつてかんと思つたなあ。

復員は二十一年春に、博多へ、武装解除は鎮江でしました。呉江に集結し、船で博多へ二十四時間かかったなあ。ほども本土の空襲の凄いのに驚いたなあ。広島では電車も何にもあれせん。大坂も一面焼け

野原だったなあ。それから名古屋に着いたら、お城の頭があれせん。それでわしは思った、勝ちもせん戦争は絶対やってかん。大体がこれは軍部が一番悪い。我々はただ使われただけだ。物資の無い貧乏な国は、しんしょうのええ国に勝てる道理が無い。

司会

戦闘での犠牲者は無かったですか？

Eさん

私等の部隊は、栄養失調、マラリアが多かったなあ。わしもマラリアにかかったなあ。武漢大学で入院して治療をした。高台のむこうに大きな湖、洞庭湖があったなあ。琵琶湖より大きいぜ。水の色は柿のような色をとったなあ。黄河も一緒。それでも東シナ海の色は青かった。えらいもんだなあ、海は。家へ帰ってからわしは思った。戦争は絶対やってかん。広島を見たときは、泣けてきたなあ。思わず手を合わせたぜ。

Fさん（女性）

実は、私はこの頃愛知航空機へ勤めていました。家にいると徴用がくると言うので、近所の方で軍需工場の役をやっている方の紹介で入らせて貰いました。そして、あの空襲で工場がやられたのですがその空襲についてお話ししたいと思います。

当時は工場だけではなく近所も防空壕が掘ってありましたね。待避といわれると、走って入ったものでした。

その日は、もうB・29が目の前に来ています。待避、と言われたときにはもう爆撃を受けていたんです。会社の辺りはもう真っ暗になっていたんです。私は、とにかく逃げようと友達と熱田神宮まではだしで逃げたんです。

堀川の道でしたが、死にかけの人が助けを求めていました。自分達もそれぞれころではないので、橋から川の下へ降りたんですが、そこには「水が欲しい、水が欲しい」ということで、ちょうどその時は引き潮だったんだすね。

中国ではなあ、働かない者は食わしてくれんの。働かざるもの、食うべからずという訳だ。

共産主義だ。負けたで仕方が無いけど、中国の兵隊に手を合わせて頼むだがや。情け無いこったわなあ。ろくに食うものがないもんだで、デンデン虫を食ったり、トカゲを食ったり、蛇も食べたなあ。

今でも私は家のほうでは、たんぼのギヤールも食べんぜ。道に落ちとるトマトでもポロつきみたいなものまでふいて食べるぜ。

ま、そういうことですわ。

司会

ありがとうございます。

主催者から

資料についてですが、かつて鳴海中学校の生徒さんが調べたものですが、この辺りの空襲の調査ですなにかこの件についてご存じの方はお見えになりますか？

司会

それは今の「白鳥橋」ですか？

Fさん

いや、白鳥橋の手前の「大瀬子橋」です。

その橋はあったんですが、辺りのざわめき、真っ暗それに火の粉、そんなわけで橋から飛び降りたんですが、今思うとゾッとするんですが、ドロドロの水を手ですくって飲んでいる人が一杯いたんですね。

私達はそういう人を助けることもできないので、一目算に熱田へ逃げました。途中でも爆撃があつて怖かったですね。

皆さんの話を聞いておまして、戦争は本当にいやだなあと思います。

私の妹は近くの郵便局に勤めていたんですが、直撃を受けて死んでいます。同じ日の空襲です。

私は熱田神宮から高蔵の姉のところへ逃げました。兄はやはり戦死しておりますが、その頃の様子から見ますと、私も爆風で肩をやられました。家は妹の

ことで一杯でしたし、私も疎開をしました。  
妹は死ぬ、兄の戦死の公報は入るで、母親は本当  
に大変だったと思います。

司会

お兄さんは、どこで亡くなられたのですか？

Fさん

ニューギニアです。

司会

今は六月九日の空襲でしたが、そのあとは・  
妹さんの遺体は分かりましたですか？

Fさん

ええ、皆さんが一生懸命探してくれまして、おかげで見つかりました。ちょうど郵便局の金庫を開けに行ったようですね。

もちろん兄の遺体は無く、ただ石ころが骨箱に一つ入っていただけです。

Hさん(女性)

大きな爆弾が落ちてね。怖くて震えていました。ガタガタという物凄い音がしました。家のすぐ裏に防空壕がありまして、近所の人が集まっています。屋根にガラガラ、ガラガラと凄い音がしたんです。爆弾が田んぼに落ちて、石や泥が飛んできて屋根に落ちる音なんです。もうだめかと思いました。

おばあさんが「どうせ死ぬなら家で死のう」と言うので、走って帰りました。おばあさんは、私の上にかぶさるようにして、私を守ってくれました。

その子は、生まれてすぐ死んでしまいましたからね

Gさん

丹下観音の近くの爆撃でしたね。

私の姉の家の近くに直撃が落ちました。その家は一家六人全員即死でした。大きなすり鉢のような穴が開いてました。その爆撃のとき、土が姉の家の上に飛んできて屋根に落ちたんですが、運がよかったですね。土と一緒に屋根が落ちてきたんですね

終戦記念日にいろいろやりますが、私は泣きながら見て、昔のことを思い出しております。  
戦争は絶対にやってはならないことだと思います  
(拍手)

司会

鳴海付近の空襲についての資料が紹介されましたが、これについて何かございませんか？

Gさん(女性)

丹下に爆弾が落ちたのは、三月ではなかったでしょうか、どなたかご存じの方はみえませんか  
ちよと笠寺の「岡本」に爆弾が落とされたときでしたから、爆弾を落として南のほうへすつと逃げようにしてね。姉はお産で丹下にいたんですが、空襲だ、ということで姉の子供二人を防空壕へ入れ、私も最後に入ったんです。

ドーン、ドーンという音がしました。焼夷弾でなく爆弾でしたね。

姉は縁の下まで落ちましたが、ちよと「こたつ」があって、そこへ屋根のたる木と土が落ちてきたんですね。だから、姉は骨も折らずにすんだんですね。そのあと、地震がありましたね。揺れるたんびに子供達を近くの広場へ連れていって、収まると家へ帰るといふ繰り返しでしたね。

司会

その地震というのは「東南海地震」でしょうか？

「三河地震」というのは一月十三日で、「東南海地震」は前の年の十二月七日ですね。

丹下観音の空襲の被害はほかに・

Gさん

花井の田んぼにも落ちましたね。だから、笠寺から丹下、花井という順で来たんですね。

司会

これまでの、空襲の記録というものは、旧名古屋市の範囲ですから、今のお話は大変貴重なお話だと

思います。鳴海中学校の調査が唯一の記録と聞いていますので……

Fさん

今日は、話を聞くばかりと思ってましたので、細かい日付なんかはまた調べておきます。

Gさん

本町の角の自転車屋さんの鈴木さんが詳しいですよ。

司会

他に、どうですか。はい、どうぞ。

Hさん（男性）

私は、戦争中東京にいました。海軍の軍人でしたが、謀報部にいましたので、戦争を全然知らないんですね。いわゆる戦争と言うものを体験していないんですね。孫に聞かれても全く話せないですね。

司会

言ってみれば、戦争のまったただ中というわけですね。

Hさん

私の仕事は、日本はこういう作戦で戦争をするからそれに必要な敵の情報を集める仕事でした。海上の戦力などを調査してました。

司会

沖縄戦の頃はどんなことをされていたんですか？

Hさん

その頃は、こっちにいましたから……一番記憶に残っていることは、大東亜戦争開戦の時ですが、十二月八日を期してA B C Dラインを突破する、という御前会議の決定がでたことが連絡が入り、必要な情報を入れよ、というわけです。フィリピンの航空兵力は爆撃機が十五分間待機、

なぜですか？

Hさん

やはり、スパイ活動はあまりいいもんじゃありませんからね。

もう一つ、レパルス号を撃沈させましたね。これは非常に苦労しました。どこへ行ったか全く分からないですよ。戦艦2隻でしたが、ひよっとしたことから発見しましたが……

司会

戦争そのものという仕事ですね。戦争が終わって戦争についてのお考えはどんなものでしょうか？

Hさん

あれはずっと続けていけば負けていたでしょうから、何時か止めなければいけないと考えていましたね。ある海戦で、英・米・仏・蘭の艦隊でしたが、日本の巡洋艦の魚雷は世界一の性能でした。

水素を使っていたから、発見されませんでしたからね。

戦艦機が五分間待機。といいますのはね、燃料、爆弾などを積載し、いつでも攻撃に出られる状態ですね、しかもそれが一週間も続いているんです。だから、ひよっとしたらアメリカの方が早く攻めて来るんではないか、十二月八日が早く来んか、早く来んかと思っていましたね。

そして、十二月八日、もうこの時は綿密に調査してありましたからね、どここの航空隊にはどれだけの戦力がある、フィリピン、シンガポールなどに置けるアメリカ軍の動き、太平洋艦隊の動きはすべてパールハーバーへ集結、しかし陽動作戦で戦争はしないという外交でもってやっていたわけですね。その後、日本は勝った、勝ったと大騒ぎでしたが我々は大変でした。戦争が始まってから三日間、何もせずに酒ばかり飲んで寝ていましたね。

だから、戦争で撃ち合う経験はぜんぜんありません。子供達にもこのことは全然話していません。

司会

司会

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか

Iさん(女性)

私の小さいときから、父親が満州事変やシナ事変と兵隊に取られて母親は大変苦労しておりました。

家にいたじいやとお祖母さんとお祖父さんで畑をやり、あとはよそで作って貰っていました。

戦争がひどくなると、田んぼをやってくれる若い人がいないのでその度に私達は苦労しました。

人の忠告で田舎へいき、大坂の蝶屋というところへ行くと徴用がこないというので、そこへ働きに

きましたんですの。ワイシャツ、兵隊のシャツを縫う工場でした。十八位でした。朝から晩まで、色の違

うシャツを番号に合わせて縫うんですが、全然休みがなかったんです。

家へ帰りたいと思って手紙を書くのですが、父親は帰らなくてもいいと言うんですね。悲しくなっちゃって、枚方の山に登って、

ゆらゆら揺れて、波がザブン、ザブンと来る中をやつとの思いで軍艦が上がったんですよ。

ところが、面会時間はたったの十分ですよ！

ヤミ切符、名古屋からの切符、三十九円出して買った切符を使って、たった十分の面会が最後でした。

ほんとに涙がとまらなんでしょう。それで、ここから飛び込んで一緒に死んでまおか、と言ったんですが。

海軍へ来て三日で泳げるようになったというんですね。飛び込んで、ちよつと泳ぐと、船が来て助けしてくれるんですが、つかまっている手にタバコの火を押し付けるんだそうです。

手紙にも何も書けないので、ただ、元気にしている、とだけ書いたというのです。

それから、仏印方面で沈没し、陸に上がったんだけれど、ヤシの木の高いところに監視所が作ってあって、そこへグラマン戦闘機がバリバリとやってきて、顔の肉の半分取られて死んだそうです。

それで、お骨はマッチ箱に一つ、のど仏一つだけ持って来てくれました。

「山に立ち、ふるさと書いて 上がりぬ」とそんだけだけ葉書に書いて家に送りましたの。

家からは「がんばれ、戦争だから。」と言ってきました。とにかくなんでも戦争、戦争でしたね。

それから私に結婚話があったんですが、父親のこいや母親の苦労を知っていましたから、私は結婚しないつもりでいたんです。しかし、今結婚しないとかたわや体の不自由な人と結婚しないかんと言うので、お見合いをしました。十七年か八年でした。

名古屋の榮署の警察官と結婚しました。

ところが、一ヶ月半で召集令状がきて江田島の海軍兵学校へ行きました。三か月たって面会が出来ました。まあ、これで最後になるけど、結婚して貰って気の毒だなあと言うのです。私も結婚したくなかったけど一緒にあったし、子供も出来ていましたからね、本当に地獄だと思いましたがねえ。

二回目の面会は確か、朝だったと思いますが、この日は、皇族が見えるというので裏から行きました。が、ボートとボートの間に渡り板が繋いであって、張ってあったロープを頼りに軍艦まで行きました。

私は、自分の子供も空襲のさ中に無くしました。ハシカだったんですけど、お医者さんに輸血して治してもらったんです。

その一ヶ月後、百日ぜきの予防注射を打つというんですね。はしかが治ってまだ一月だから、止めて欲しいと言ったんですが、「子供は大切だ。薬の無いときに薬を要らんというのは、非国民だ。」と言われ打ったんですが、三日苦しんで死にました。

私は、医者が殺したと言って泣きました。

それから、妹は疎開していましたが、だんなさんは沖繩へ行きましたが帰ってきませんでした。だけど、妹は死にました。伯父様が戦死の公報が入りました。榮署から渡したいものがあるというので、行きましたら、薩摩芋をたんと下さいました。警察の人達に食べてもらおうと貰ってききました。昼食のおにぎりを新名古屋で食べていましたら、そこへ大人やら子供やらが一杯集まってきて、手を出すんですね。くれて言うわけですね。

世の中にはこんな不幸な人が一杯いるのか、と思えましたね。

司会

ありがとうございます。ほかにどうですか？

Jさん（女性）

私がお嫁入りして一年ほどして戦争が始まったんですが、その頃はお腹に赤ちゃんがいました。

歩哨に立ったりバケツリレーをしたり、竹やりの練習をしたりしました。主人は「丙種」だったんですから、徴用で「日本車両」の門衛として勤めていました。皆は平坂のお姉さんのところへ疎開をしていましたが、私は一人で残りました。千坪弱のお屋敷に一人でいました。三男が生まれるときは、何時生まれるか分からないので、防空壕にも用意をしておきましたが、生まれたのは戦後だったので普通の病院で産みました。まあ、いろいろな経験をしました。

司会

ありがとうございます。

しさん（女性）

私は、朝鮮半島の平壤で生まれ、朝鮮で育ちました。父が事業をしていましたが、平和産業でしたので軍需工場に変えなければいけなかったもので、大理石は平和産業だから、蛍石を掘り出す仕事に変わりました。蛍石は飛行機のアルミニウムを分解するのに役立つそうなんです。

父は日韓併合以前から朝鮮で事業をしていました。日露戦争が終わってすぐ行きまして四十年以上居ましたからね。終戦後、朝鮮人をいためたからといって日本人を留置場に入れたわけです。父もひどい目にあって、留置場の外へほうり出されたんです。

司会

どうしてほうり出されたんですか？

しさん

留置場の中で死なれると困るからでしょうね。

父の知り合いの人が見つけてかくまってくれたんで

Kさん（女性）

私は有松ですが、五月の空襲だったかその前の空襲だったか、焼夷弾がお寺の上から花火のようにすごかったですね。祇園寺というお寺ですが、名古屋へ落とした残りを落としていった、と皆が言ってますけど。西のほうの一軒が全焼しましたけど、近所の人が総出でバケツリレーでやっただんですが、たぶん、焼けたのはその一軒だけだと思いますが。お寺の屋根にもだいぶ落ちたようです。

それから近くの川にも、扇川ですね、大きな爆弾が落ちましたね。防空壕が揺れましたね。

そのころは毎日竹やり訓練とかバケツリレーばかりやっていましたね。

遺骨を貰いに行ったり、天神さんに出征兵士の武運長久を祈りに行ったりしましたね。

司会

どうもありがとうございます。

す、終戦の後一月ほど。

それから、そこへロシアが来たのですが、ロシアは捕虜を送りこんだんですね。いれずみをしたロシアが来るというので、女は丸坊主でしかもわざわざトラ刈りにして、何枚もズボンをはいたものです。

私は、ロシア兵の所へ洗濯に行きました。

汚れて油まみれの服を煮立てて洗うんです。洗剤やら石けんやら日本の物資を接取したものです。

牛でも何十頭とトラックに積んでソ連に持っていくんです。日本がこんなに物資が豊富なのに戦争に負けたんだらうと思いました。

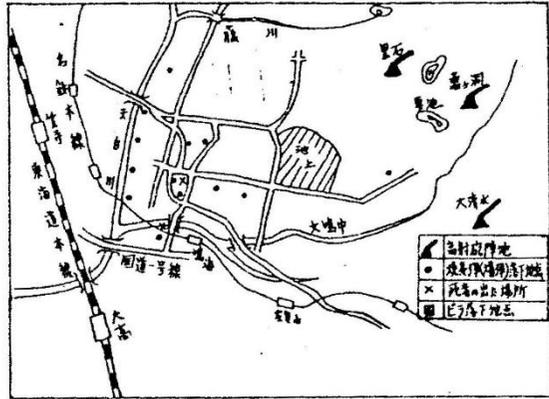
私達は、毎日黒パンをもらって帰り、それを父を始め皆で分けて過ごしました。

そして引き揚げて来たんです。三十八度線を越境して、あれは夜でしたね。負傷した父を背負って行きました。皆からだんだん遅れていきます。大きな声で泣きながら「待ってえ」と助けを呼ぶと助けに来てくれました。そして、テント村につきました。テント村では毎日のように死人が出ていました。それから、無蓋車に乗って釜山までいきました。

# 資料「なるみ」名古屋立鳴海中学校歴史クラブ 昭.52年度

昭和20.5.17の鳴海付近の空襲

2の2 鬼頭秀彰、桂一朗、長谷川宏二



尚、空襲の時刻は午前2時から30分間、落された爆弾数は98発(B-29約10~15機襲来)

## 鈴村さんの余談

1日が一番よく敵機が来たのが17~18回で最低3機程度が普通。日本の戦闘機2機ぐらいずつで体当たりする。偵察機は照空燈の光をうけると航行が困難になるらしく、速く上空へ逃げていった。城跡公園近くに爆弾が落ちた時鳥小屋に直撃し、鳥の羽が空に舞

## 被害の出た所

花井、丹下(死者有)、藤川~天白川に沿って5発(300mおき)、賢願寺、鳴海小学校、第6校舎の入り口附近、鳴海荘岩下、北荘塾の附近、成海神社、丹下観音の裏、下郷家、ワシノ製機、西町(死者有)、田村電気、大村さんの倉庫、八幡様の西30~40、古鳴海30~40軒、平手1戸、かこ山1戸

## ピラについて

5月17日の空襲の2~3ヶ月前、米軍機より潮見ヶ丘~名古屋東部までまく。

ピラの内容は日本人にわかりやすくするため手に手錠をかけた絵などを中心に日本語による説明が書いてあった。

(英語も一部書いてあった。)

## 5月17日の空襲

爆弾落下地点は上記の被害の出た所の周辺に各一発と、天白川沿いに約300m間隔で5つくらい、直径20m、深さ約10~15m前後の穴をあける。

い上がり土が鈴村さんの家の屋根まで飛んできて、掃除するのに大変だったそうである。

被害状況	件数
全焼した住宅	131
半焼した住宅	12
全焼した住宅以外の建物	4
半焼した住宅以外の建物	3
家財を失った建物	143
家財をこわされた世帯	52

## 大清水の高射砲について

ここは鈴村さんの談話によると、今でもその高射砲の陣地を築いた跡があるそうで、西村さん宅が、その兵士たちの宿舎やら弾薬庫になっていたようだ。

## 感想

根古屋の鈴村秋一さんから、鳴海の空襲について、いろいろお尋ねして、ここに記録にまとめることができたことは、ほくちらだけではなく、多くの人たちに知ってもらうために大変意味のあることだと思った。

途中で父のリュックサック、中に遺骨が入っていた物ですが、盗まれました。  
釜山では、明日の朝、船が出帆するというので病人から先に乗せて貰いましたが、父は夜の九時頃から昏睡状態に入り、死んでしまいました。そこで、私と父の遺体は船を降ろされました。父を火葬し、お骨をもって博多へ引き揚げ、郷里の滋賀県へ帰ったんですが、いつ思い出しても、戦争は二度としないと思います。

司会

ありがとうございます。

時間がまいました。非常に貴重なお話を聞かせて頂きまして本当にありがとうございます。

どうしても国家の問題にぶつかり、ぼつぼつと根みつらみが出てくるのでしようが、時間の関係で切らせてもらいますが。

大事なお話を体験した人に一人じめされて余りにももったいないお話ですので、今日のお話を語り継ぐことが大切なことだろうと思います。

主催者 お礼のあいさつ

その日、そのころ、私は.....



小出先生



1989年 名古屋市緑社会教育センター

## 戦争体験を語り継ぐ集い

### 感想文集

1989年 8月 10日 (木)

10時 ~ 12時

名古屋市緑社会教育センター

視聴覚室

講師 小出 裕

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 木村正男

結構な集会でした。

欲をいへば、遅すぎた感じ、無きにしもあらずですが、皆で努力して、育てる義務がある気がします。戦争なんか希望してまで体験する必要はないものです。

今の若い人、幼い人が毎日味わって居る幸せを守るため一つの方法として、「題名の集まり」が出来てもよいと思います。皆で苦しかった事、悲しかった事の体験、見聞きしたことを語り合って若い人達を戦争から守りましょう。本当に今日は有難うございました。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 不破あきる

皆さんのいろいろな体験談をお聞きし、私達の年代の者の苦勞が現在幸福でいられるのでしょうか。

当時の様子が走馬灯のように思い出されました。

非常に良い集いであつたと思いました。

今日はどうも有難うございました。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 杉山孝司

私は、昭和19年から20年の終戦まで、中国の中支・武漢・三鎮方面の戦場にでていました。戦友も戦病死をしました。

内地へ復員して帰ってきたら何もかもが配給で、また空襲で破壊されており、国民が犠牲になり誠に気の毒なことだと思った。

絶対に戦争はしてはいけないことです。

\* 特に、広島・長崎の方々が気の毒だと思います。(原子爆弾です)

英米その他の戦地では「新型爆弾」といっている。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 栗山国治

いろいろな方々の戦争体験談を聞かせてもらい、大変参考になりました。

総合して判断して見るに、男性より女性のほうが細かいことを記憶してみえるようだ。少し残念に思ったことは、この戦争に突入した原因は日本が中国大陆を侵略した事に有ると誰も発言しなかった。

皆さんは、苦勞話をされたが一番苦しんだのは中国大陆、そして東南アジアの住民の方達ということで最後を結びたいと思います。

\* 「戦争体験を記録する」仲間が出来たら参加したい。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 松島 すすゑ

皆さんのお話を聞くだけのつもりで来ましたので、まとまった話や日付など忘れて話をしましたが。

このような皆さんのなまなましい体験を聞かせていただき、ほんとうに大変でしたね。

私も兄二人が戦死しましたので、戦争は大反対です。

このような話、または「語り継ぐ」ということはとても良い事です。

たびたび聞いて下さるととてもよいと思いました。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 西 照 男

海軍軍人でしたが、第1線の戦争体験が無いので、第1線の苦しみがわからないが、余りにも無理な戦いであった。資源の少ない日本が大国を相手に戦ったのは余りにも無謀であった。

今の平和の時代を見て、戦争が起こらないよう、我々は努力しなければならないと考える。

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 下郷幸子

---

表の道を通った時に、今日の御話のあることを知り、おくれ駆せながら聞かせて頂きました。

---

皆様の大変結構な御話を聞くことが出来まして有り難い三十分でした。

---

1989 戦争体験を語り継ぐ集い 感想文

氏名 山本賢（旭出小学校 4年生）

---

せんそうは、しょくりょうや、きるものなどがはいきゅうとなり、ぼくだんなど落とすからこわいなあと思いました。また、いまだになつてうまれてよかったと思いました。

---